

秋号

—令和3年度—

研究だより

附属光学園

山口大学教育学部附属光小・中学校

一貫教育において求める子ども像

本質を見極めよう
とする子

多様性を尊重し
協働できる子

社会との絆を
深める子

6月のオンラインでの研究発表大会では、多くの方に御参会いただき、ありがとうございました。たくさんの御意見や御助言を基に、研究を進めることができました。

研究だより秋号では、そのときの様子をお伝えいたします。今後とも御指導御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



お問い合わせ先

〒743-0007 光市室積8丁目4番1号

小学校

TEL (0833) 78-0124・FAX (0833) 75-1507
URL <http://www.hikari-es.yamaguchi-u.ac.jp>



小学校HP

中学校

TEL (0833) 78-0007・FAX (0833) 75-1509
URL <http://www.hikari-jhs.yamaguchi-u.ac.jp>



中学校HP

小・中

URL <http://www.hikari-gakuen.edu.yamaguchi-u.ac.jp>



【国語科】

国語科では、「言葉の意味や働きに注目して、互いの思いや考えを伝え合うことのできる子どもたち」を目指しています。そのため、前期では、能動的に読んだり、解釈を広げたりして楽しむこと、中期では、分析的に読んで考えを深めること、後期では、読むことの意味や楽しさを捉えることを大切に作るカリキュラムを作成しています。

小学校1年 かくれんぼチャンピオンは、どの生き物かな？ ～『うみのかくれんぼ』（光村図書1年）～

2つの生き物を比較し、隠れ方が上手な生き物を決める「判断型学習課題」を繰り返し設定しました。そうすることで、体の特徴や隠れる素早さに着目し、友達の考えと比べたり、前時までの学習を振り返ったりして、自分の考えを形成し、「次はどちらが上手に隠れるかな」と見通しをもって、学習に取り組むことができました。

有田 友萌



小学校2年 獣医さんは、どの仕事が一番大変だと思っているのかな？ ～『どうぶつ園のじゅうい』（光村図書2年）～

「獣医さんが一番大変だと思っている仕事は、どれか」という判断型学習課題について、単元を通して探っていく場を設定しました。そうすることで、子どもたちは、友達との考えのずれによって、「どうして大変だと感じたのか」「どこから大変だと感じたのか」と、理由や根拠を求め、主体的に学びを紡いでいくことができました。

田中 章憲



中学校2年 研究者としての筆者の姿勢に迫る ～『クマゼミ増加の原因を探る』（光村図書2年）～

仮説・図表・題名に焦点を当てて、「筆者の姿勢は表れているか」という判断型学習課題を探っていく場を、単元の中で繰り返し設定しました。そうすることで、子どもたちは、「どこから表れているといえる」「どのような述べ方だから表れているといえない」と、言葉の働きに着目しながら、考えを深めていくことができました。

貞安 菜央



【算数・数学科】

算数・数学科では、日常や数学の事象に対して、「既知に帰着する見方・考え方」「統合的な見方・考え方」「発展的な見方・考え方」を働かせて思考する子どもの姿を目指しています。そこで、通常の単元カリキュラムとともに、前期、中期、後期の発達段階をふまえ、子どもたちに「こんな問いをつかんでほしい!」という思いで作成したカリキュラムを授業者で共有し、9年間の学びを紡いでいます。

小学校4年 小数ってどんな数? ～『小数の仕組みを考えよう』～

具体物(オアシス)1kgを、消しゴムと同じ重さ0.019kgに切り分けるために、「どうやって切り分けると0.1kgになるか?」と発問しました。そうすることで、10等分は長さも大きさも等しく10個に分けることを再認識し、0.001kgに切り分ける方法を説明する姿が見られました。そして、0.019は0.001を19個集めた数、または、0.01を1個と0.001を9個あわせた数というように、小数の仕組みについて考えることができました。

山本 東建



中学校2年 数のしくみを追究する ～式の計算～

事象(問い)に対して、文字式に「表す」、文字式を「変形する」、文字式を「読む」のサイクルを回した後、「この後どうする?」という問いを投げかけるようにしました。そうすることで、子どもは新たな問いをもち、課題の条件を変えたり、課題を発展させたりするなどして、学びを紡いでいく姿が見られました。

竹坂 豊



小学校5年 小数のわり算と整数のわり算はそっくりさん? 診断 ～小数のわり算～

毎時間の振り返り時に、「今日の小数のわり算の学びは、整数のわり算の学びに似ていたか?」を4段階で判定する「そっくりさん? 診断」の活動を設定しました。そうすることで、子どもは、既習事項との関連を強く意識するようになり、新しい問題に出合った際、これまでの学習で使用してきた図や式などを、自ら使って考えたり、説明したりする姿が増えてきました。

兼安 陽一郎



中学校3年 式を自在に操る ～式の計算～

式の計算(展開と因数分解)と図形の面積を結びつけた授業を、単元を通して行いました。そうすることで、子どもは単なる計算処理に終始するのではなく、式のしくみを図形で理解したり、統合・発展させて考えたりする姿を見せるようになりました。次時の平方根の単元にもつながる活動になりました。

吉村 直樹



【社会科】

社会科では、「社会的な見方・考え方を働かせ、よりよい未来の社会を築いていく子どもたち」を目指しています。そこで、学習課題を追究する子どもの見方・考え方を、これまでの授業実践を基に分類して整理し、多角的に学習課題を追究することを大切にしたカリキュラムを作成しています。

小学校6年 ローカル政治調べ隊 ～わたしたちの暮らしを支える政治～

単元を通して、「地方公共団体の政治の役割」について考えていきました。光市と柳井市の公共施設の設置や建設計画について、話し合う場を設定したことで、子どもたちは、両市が抱える課題や現在の社会状況などを比較して得られた結論を基に、「地方公共団体の政治の役割」を問い直すことができました。

千々松 哲大



中学校3年 高度経済成長による日本の変化・これからの人権 ～歴史的分野と公民的分野の融合～

単元を通して、「国民の安全を考えたとき、重視すべきは国民の健康か、経済の発展か」という問いを立て、本時では、高度経済成長期の政府・国民・企業の立場に立った、パネルディスカッションを行いました。そうすることで、子どもは、社会問題に対して、多面的・多角的な視点から、議論をすることができました。

吉岡 友子



【理科】

理科では「科学的に物事を捉え、根拠を基に発展的に思考することができる子どもたち」を目指しています。そこで、立案と考えをつくり出す際の思考の仕方に重点を置いたカリキュラムを作成し、日々の授業づくりに生かしています。

小学校3年 比べて深めるエネルギーの学び ～風とゴムのはたらき～

単元を通して、「風とゴムのどちらが車を進ませるのに向いているか」という問いを設定することで、風のカや帆の形を変えたりゴムの長さや太さを変えたりしながら、車をより遠くに動かすために力を大きくする工夫をしていくことができました。エネルギーに対する見方の深まりをどう自覚化させていくかが今後の課題です。

宮崎 洸佑



中学校3年 金属のイオンへのなりやすさ ～イオンと電池～

「金属のイオンへのなりやすさ」を探る課題を解決するために、イオンや電子の動きを視覚化して説明する場を設定しました。そうすることで、子どもは、既習内容の金属に起こる反応を思い出し、電子の動きに着目してモデルを動かしながら、物語風に他者へ伝え、理解を深めることができました。

米村 崇



【音楽科】

音楽科では、「幅広い音楽活動を通して、音楽の見方や考え方を働かせながら、音楽の無限の可能性を見いだそうとする子どもたち」の育成を目指しています。そのために、音楽を形作っている要素とその働きを関連させて、音楽に対して深く探究していくことを大切にしたカリキュラムを作成しています。

中学校1年 曲想と音楽の特徴の関わりに注目しながら、情景を思い浮かべて聴こう
～「春」 第一楽章～

映像に様々な種類の音楽を挿入した鑑賞で、音楽のもつ力を確認しました。「春」の鑑賞では、子どもたちが音楽から知覚したり感受したりした内容を、楽譜の中で再確認する活動を設定しました。そうすることで、作曲者の音楽に対する工夫に気づいたり、自分が聴き取ったことを、音楽を形作っている要素と結びつけたりすることができるようになりました。

白地 めぐみ



【図画工作・美術科】

図画工作・美術科では、「互いのよさや美しさを取り入れ、自分の思いを表現することの喜びを感じることで、子どもたち」の育成を目指しています。そのために、前時までの活動を振り返る中で、その不十分さや、「もっと～したい」という思いから生まれてくる問いを捉えることを大切にするカリキュラムを作成しています。

小学校5年 音ってどんな色？形？
～『音のまよう』～

子どもにとって、身近にあるものの普段意識することの少ない「音」を題材として扱い、導入において「音クイズ」や「音探し」の活動を設定しました。そうすることで、子どもたちは、音への関心を高める一方で、「音を絵に表すにはどうすればよいのか？」という問いを抱き、用具による形や色、線描の効果について試行錯誤しながら、自分の感じたイメージを絵に表現することができました。

池内 達也



中学校3年 色彩や図形のコラボレーション
～マグカップで抽象表現をしてみよう～

「感情を抽象表現するにはどうすればよいか」という問いから、マグカップのデザインを個人テーマに沿って創る活動を設定しました。そうすることで、子どもは、これまで学んだモダンテクニックやフロッタージュなどの技法を活用し、今までにない抽象のイメージを考えながら、より抽象の本質に迫った表現をすることができました。

中村 賢太



【技術・家庭科】

技術・家庭科では、「よりよい生活や社会を創造していく子どもたち」を目指しています。そのため、働かせたい見方・考え方をまとめて整理し、子どもがよりよい生活や社会を創造していく対象の広がりや内容の深まりを捉えることを大切にしたカリキュラムを作成しています。

小学校5年 自分にも地球にもやさしい消費生活 ～持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方～

子ども自身や家族の買物の失敗経験を基に、「自分にも地球にもやさしい消費者になるにはどうすればよいか」という題材を貫く問いを設定しました。題材を通して、この二つの視点から物の選び方や使い方を考えることで、自分の今までの消費行動を具体的に見直し、改善しようとする姿が見られました。

坂本 真友香



中学校3年 学校生活における問題をテクノロジーで打開する ～情報の技術～

題材を貫く問いを「学校生活における問題を解決するために、どのような状況で、何を変化させるか」に設定しました。そうすることで、子どもは、学校生活と個人の生活経験とを結び付けながら、「現状」と「理想」との差をなくすためのセンサやアクチュエータの種類やプログラムを工夫し、問題の解決に迫ることができました。

瀬尾 優治



【体育科】

体育・保健体育科では、「身に付けた知識と技能を関連付けて、主体的に課題解決に取り組み、生涯にわたって運動に親しもうとする子どもたち」の育成を目指しています。そのために、他者との関わりを大切に、アウトプットを大切にしたカリキュラムを作成しています。

中学校1年 様々なつながりを意識しよう ～マット運動～

自己の技の課題やその解決方法を蓄積させ、それをもとに小学生に技を教えにいく活動を設定しました。子どもたちはこれまで学習した知識や技能、仲間からのアドバイスなどを活用し、多様な方法で小学生に指導し、技能の向上を図りました。また、この活動を通して「小学生の姿から技のポイントを発見する・自分の考えが深まる・一緒に練習することでお互いの技が上達する」といった自己の技能につながる姿も見られました。

高木 菜満恵



【外国語・英語科】

外国語・英語科では、「複数の技能を統合的に活用する活動を通して、既得の知識や経験を生かしてコミュニケーションを図ろうとする子どもたち」を目指しています。そのため、「話すこと」に重きを置きながら、発達段階に応じたカリキュラムを作成し、小中それぞれの目標に合わせて、様々な活動を仕組んでいます。

小学校6年 ぼくらのGO TO TRAVEL PLAN! ～What country do you want to visit?～

本時では、自分の主張が伝わるかどうか、互いにアドバイスし合う活動を取り入れました。そうすることで、自分の主張が十分に伝わらないもどかしさから、どうしたらもっと主張がよりよく伝わるのかという問いをもち、単元の初めに抱いた、相手に伝えたいという思いを継続しながら、学習に取り組むことができました。

石津 友美恵



中学校1年 もっと知りたい、もっと伝えたい ～Stage Activity1 “All about Me” Poster～

小学校外国語科で身に付けてきた英語表現をもとに、自由に自己紹介の様子を撮影し、自分の紹介内容を振り返る時間を設定しました。そうすることで、英語表現の細かい違いや、表現の偏りに子どもが気づき、自分のことを詳しく伝えるためには、どのような表現を使用したらよいかを考える姿が見られました。

梅田 彩味



【道徳科】

道徳科では、「道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えながら、人間としてのよりよい生き方を見出そうとする子どもたち」を目指しています。そのため、小中9年間を見通して、発達段階に応じた各内容項目別の学習内容カリキュラムを創り、活用しています。

中学校2年 誠実に実行する ～『手品師』（学研教育みらい）～

教材にある手品師の葛藤の様子を、即興的な役割演技を活用して体験的に捉えながら、自ら考え、判断し、自分の意思に基づいて誠実に責任を果たそうとする道徳的実践意欲と態度の在り方を考えました。子どもたちは、「自ら考え、判断する姿」と「誠実な心」のつながりを自分の事として真剣に考えていました。

藤永 啓吾



【総合的な学習の時間】

総合的な学習の時間では、「自分の可能性や未来の姿を模索し、生きる道を創り出していく子どもたち」を目指しています。そこで、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究的な学習の過程において、目指す具体的な資質・能力を整理したカリキュラムを作成しています。

小学校4年 楽しく関わり隊 ～高齢者の方々と自分のために～

本時まで、高齢者の方々のために様々な企画を考えてきました。本時では、インタビューや疑似体験を通してまとめた高齢者の生活メモを基に、企画内容を振り返る企画成功チャートを作成し、企画内容を検討させました。そうすることで、本時までの学習をいかしながら企画内容を振り返り、「高齢者の方々を楽しめるように」という思いをもって、学習に取り組むことができました。

大塚 進真



小中一貫教育研究協議会のお知らせ

6月のオンラインの研究発表大会では、多くの方に御参会いただき、ありがとうございました。研究大会での成果と課題をうけて、「well-beingにつながる学び～教科等の本質に迫る授業づくりを通して～」という研究テーマで公開授業を行います。詳細はWebページにてお知らせします。多くの方の御参加をお待ちしております。

日程

令和4年2月11日（金）9：00～

《午前の部》

《午後の部》

9:00	10:30	11:00	13:00	14:30	15:00
協議会 (午前の部)			協議会 (午後の部)		
アンケート 諸連絡			アンケート 諸連絡		

オンラインでの研修を行います！

【内容】 オンラインでの授業動画視聴， 協議会等

- ★県内各地及び全国から，気軽に御参加いただけます。
- ★チャット機能等を用いて気軽に質問や意見交換もできます。
- ※授業内容や申し込み等の詳細については，1月上旬の二次案内にてお知らせいたします。



秋号におきましては、本学園の研究から見えてきた成果や課題に言及しながら、各教科・領域ごとの内容を掲載しました。御一読の上、御意見や御示唆を頂戴できれば幸いです。皆様には今後も変わらぬ御指導と御鞭撻を心よりお願い申し上げ、発刊の御挨拶とさせていただきます。

